

6月1日「加来徹バリトン・リサイタル」

ピアノ伴奏の松岡あさひさん



教育会館ふれあいコンサートは、演奏家や市民の協力に支えられ、21年目となり長きにわたり継続しています。この間、多くの演奏家と市民が感動を共有することができました。その中で、ときに、ソリストと共に伴奏者が印象に残ることがあります。その1人が松岡さんです。

ピアノ伴奏者は、技術力だけではなく、音楽的なセンス、表現力、ソリストへの理解が大切です。これらの要素が組み合わさることによって、演奏全体に深みと感動が生まれると言われています。何よりも、ソリストの個性や演奏スタイルを理解し、それに合わせた伴奏を奏でることが重要です。

松岡さんのプロフィールと活動からも実力と人柄の一端が伝わってきます。

ドイツ・デュッセルドルフ生まれ。東京藝術大学音楽学部作曲科を首席で卒業。アカンサス賞、同声会賞受賞。ドイツ国立シュトゥットガルト音楽・演劇大学に留学。2014年帰国。作曲、編曲の他、的確な解釈と多彩な音色によるピアノ伴奏にも定評がある。東京藝術大学演奏芸術センター特任准教授。

インターネット検索でも松岡さんの多様な活動を知ることとなり、石田組の要請により「津軽海峡冬景色」の編曲をされていたのには驚きました。改めて、CDで加来さんの歌声と松岡さんの伴奏を聴き、心地よい伴奏のピアノの音により加来さんの声がいつそう輝いているように感じられました。魅力あるソリストには実力ある伴奏者ありでしょうか。長年にわたり情熱をもって取り組んでいる加来さんと松岡さんのコンサートはますます聴衆を魅了すると思います。

昨年のコンサートでは、「加来さんの歌声はいつも魅力的で、素晴らしいのですが、今回はさらに演出やトークもパワーアップ。最初の「カルメン」から私たちを楽しませてくださいました。松岡さんとの息もぴったりで、魅力あふれるリサイタルでした」と、感想をいただきました。

6月1日、「加来徹バリトン・リサイタル」を開催します。最初の曲目がシューベルトの名曲セレナーデ、期待が高まります。